

株式会社 おさるランド

SDGs宣言

弊社は「エンターテインメントを通じて、地域・社会・文化の価値向上に貢献する」という理念のもと、地域経済の活性化と日本伝統芸能の維持・発展を通じ、SDGsの目標達成を目指してまいります。

2022年9月15日
株式会社 おさるランド
代表取締役 村崎 太郎

SDGsの達成に向けた取組

動物保護・環境保全

野生動物を保護し、動物愛護と環境保全の精神を守り抜きます。

【具体的な取組】

- 近隣住民に危害を与える野生の動物を保護することで地域住民の安全を守る
- 殺処分されるはずであった動物を保護し、尊厳を守る
- 弊社に所属する動物を、弊社の大切な“社員”として共に歩む

地域活性化・産業振興

持続可能な地域づくりのため、地域の社会的・経済的な活性化の取組みを行います。

【具体的な取組】

- 総合テーマパークとして地域経済・社会を盛り上げる
- 雇用増加による地域労働力の活用
- 周辺事業者を巻き込んだ地域活性化

社会・教育への貢献

自社のリソースを最大限活用し、人々の笑顔をつくり、子供たちの豊かな未来をつります。

【具体的な取組】

- お客様に充実したエネルギーを提供
- 動物たちとの触れ合いを通して、命の尊厳を感じ、考える機会を提供
- 子供たちの感受性・未来創造力の醸成に貢献

フードロスの削減

未来の地球環境を守るため、自社で排出する廃棄物の削減やリサイクル等の活動に努めます。

【具体的な取組】

- 廃棄物排出量の削減、リユース・リサイクルの推進
- ペットボトル・空き缶の分別回収やリサイクル活動
- 地元企業から市場に回さない食材を再利用

SDGsとは
SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称で、2015年9月に国連で採択された2030年までの国際目標。「地球上の誰一人取り残さない」をスローガンに、持続可能な社会の実現を目指しており、経済・社会・環境などの分野で17の目標と169のターゲットで構成されています。

本宣言書は栃木銀行のレポートの転写作成しております 栃木銀行

ニホンザルをまな学ぼう!

まな学ぼう!

ニホンザルの生態や
扱(さ)わしのお仕事(しごと)を知ろう

日光さる軍団(にっこうさるぐんだん)では、群れからはぐれたニホンザルの小猿(こざる)や、鳥獣駆除の際に捕獲された小猿(こざる)を保護し育成(いくせい)しています。1~2歳、大きくても3歳までの小猿(こざる)は日光さる軍団(にっこうさるぐんだん)の赤ちゃんハウス(あかちゃんハウス)で自由に過ごし、その後、トレーニングをし、デビュー(めいぶ)を目指(めざ)します。

お問い合わせ先

おさるランド & アニタウン

TEL 0288-76-8036
〒321-2524 栃木県日光市柄倉763
E-mail / info@osaruland.jp URL / www.osaruland.jp

おさるランド & アニタウン
日光さる軍団

ニホンザルの現状

ニホンザルはほとんどの都府県に生息し、分布域は拡大しており、シカ、イノシシに次ぐ第3の害獣と呼ばれています。近年の野生鳥獣による農作物被害金額のうち、全体の約7%（約13億円）がニホンザルによるものです。農作物など栄養価の高いものを安全に食べられることを学習すると、集落に繰り返し出没するようになります。ニホンザルの保護・管理の究極的な目標は、人とニホンザルの軋轢が最小限

となるようにし、それを維持することです。そのためには、人の生活空間へのニホンザルの進出を食い止め、群れが分布する範囲を山地に限定させ、また計画的な捕獲や被害防除対策によって、耕作地を含む人の生活域とニホンザルの行動域を分離していくことが必要です。駆除数は年々増えており、現在では年間約25,000頭（栃木県内では約500頭※令和元年度）に上ります。



ニホンザルの豆知識

体長	オス(50~60cm)・メス(45~55cm)		
体重	オス(10~18kg)・メス(8~16kg)	おさるさん	
尾長	オス(8~12cm)・メス(7~10cm)	おさるさん	
分類	ヒトと同じ霊長目、オナガザル科マカク属		
寿命	野生での寿命は25年程度とされているが、飼育下では34歳をこえた例がある。		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 毛色は暗めの赤褐色で、お腹の毛色は淡くほぼ白色。 昼行性で、数十頭からなる群れをつくり、一定の行動域をもって生活するが、季節によって行動域内の利用する場所は異なる。 メスは生まれた群れで一生を過ごす、オスは5~8歳に成長すると群れから離れ、他の群れに加入したり、オスのグループを形成したりする他、「ハナレザル」として単独で生活する。 顔に毛はなく、ピンク色の肌をしています、年をとるにつれて赤みが増す。 お尻にも毛が生えておらず、尻だこという固い部分がある。神経は通っていないため、硬い木の上や石に座っても痛くない。 		
性格	人間に近い感情を持っていると考えられており、表現が豊かで特に目の前の事柄に対する好き嫌いの感情は表情だけでわかってしまうほど。さらに自分の感情に素直なため、個体によってはかなり攻撃的なこともある。野生のおさるさんにむやみに近づかないほうが良い。		
食べ物	くだもの、植物の種、花、葉、木の皮といった植物性食物が中心。キノコや昆虫やカエル、トカゲなども食べる。また、多くの地域で粘土質の土を食べることが知られている。		
毛づくろい	この行動は、互いの毛の奥からはがれた表皮片や、絡まった毛のかたまりを取り除く、衛生上の必要なもの。毛づくろいは相手がまわらず行っているわけではなく、深い関係を持っている同士が、相互に行う行為であり、友情と忠誠の証。		

猿まわしの歴史

日本人の生活に密着していた猿の信仰

昔から猿は、馬の病を治したり、馬の世話をするとわれ、馬の守り神とされてきました。また、武家での厩舎の悪魔払いや厄病除けの際に重宝され、正月には厩の前で猿を舞わせたりという習慣もありました。



神厩舎は、ご神馬をつなぐ厩です。長押には猿の彫刻が8面あり、人間の一生が風刺されています。中でも「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿の彫刻が有名です。

猿まわしの祈祷の歴史

江戸時代には日本各地の城下町などに存在し、徳川家康が江戸に入府した際、家康の馬が足の病気にかかり、猿まわしの祈祷により病気を治したという記述もあります。

猿まわしのトレーナーのお仕事

人前でサルが芸を披露する「猿まわし」。そのサルに芸を教える人「トレーナー」はどのような仕事をしているのでしょうか。

芸の教え方

どのようにしてサルに芸を教えるのでしょうか。多くのトレーナーは、決められた1匹のサルとコンビを組み、長い時間をかけて信頼関係を築き、芸を教えます。同じ芸をサルと何度も繰り返し練習して、覚えさせます。



約一千年前、仏教の伝来と共に日本に渡ってきた「猿まわし」の芸

猿まわしの復活

近年、明治以降は全国に散在していた芸も、山口県周防地区の芸人達の集団だとなり、昭和30年代に猿まわしは完全に消滅します。しかし、猿まわし芸の復活を懇願した村崎義正(太郎の父)を中心に見事復活し、現在に至ります。古来より、猿と人間が常に寝食を共にし、お互いに相棒として信頼関係を築き作り上げてきた、伝統芸能猿まわし。その芸は、村崎太郎から多くの弟子たちが継承されています。



おさるさんのお世話

野菜やフルーツを切っておさるさんにあげるご飯の準備や、掃除も大切なお仕事です。成長に応じて食事の量も調整しています。

